



JARA NEWS

Japan Automobile Recycle Network News

July 2016 No. 111

www.jara.co.jp



高橋敏理事長（中央）と名誉顧問に就任した天明茂前理事長（左）、大島卓前副理事長

NPO JARA 新体制、理事長に高橋副理事長昇任

NPO法人全日本自動車リサイクル事業連合（JARA）は5月26日、東京都内で第12回通常総会を開催し、新理事長に高橋敏副理事長を選出した。本来は役員改選期ではないものの「リサイクル業界を取り巻く環境変化が激しくなる中、新体制のもとで進んでいく」（北島宗尚専務理事）ことにした。退任した天明茂前理事長と大島卓副理事長は名誉顧問に就任した。

総会では2015年度事業報告・収支予算、16年度の事業計画・収支予算を審議、承認した。議案の中では15年6月に世界各地で取り組まれている環境プロジェクトを表彰する「エナジーグローブ賞」を受賞したこと、同年10月に行ったAAEF（アジア自動車環境フォーラム）in秋田の様子なども報告された。

今年度の事業計画は（1）中古車輸出についての整備研究（2）CO₂削減への貢

献活動（3）自動車リサイクル事業者等へのセミナー開催（4）世界の自動車リサイクル事業者との連携に取り組む。（1）では関係機関との連携を図り、諸課題の研究、検証を実施。

（2）では自動車リサイクル部品CO₂削減効果数値表示プログラムについての啓蒙活動や活用セミナーなどを開催する。（3）では8月以降をめどに事業を対象にした各種セミナーを予定しており、（4）では今秋にオーストラリアで行われるAAEFなどで各国との連携強化を図る。また、海外市場への進出を狙う事業者支援も行う。

（日刊自動車新聞6月2日）

日本ELV機構が新体制代表理事に酒井康雄氏

一般社団法人日本ELVリサイクル機構は9日、「2016年度定期社員総会」を東京都内で開催した。任期満了に伴う役員改選を実施し、新代表理事に酒井康雄氏を選出した。また、石上剛氏、永田則男氏、木内雅之氏、埜村岳史氏が副代表理事に就任。新役員体制のもと、機構のさらなる活性化と自動車リサイクル業界の発展に取り組む。河村二四夫前代表理事は相談役に就く。

酒井代表理事は総会後の社員交流会で「厳しい状況下での着任で身の引き締まる思い。ブロック活動を活性化し各社の健全経営を支援できるよう組織として力を付けていきたい」と意気込みを語った。

総会では2015年度事業報告と収支予算、16年度の事業計画、収支予算などを審議、承認した。

16年度事業計画には「日本自動車リサ

イクル研究所」の立ち上げを盛り込んだ。リサイクル技術の研究や自動車リサイクル士の認定、ラベリングなど各種証明書類の発行などを行う予定。7、8月をめどに法人登記する予定となっている。

自動車リサイクル士制度の内容も拡充する。解体の実務に関する好事例を盛り込むなど受講者の理解促進に努める。また、受講者の負担軽減を目的にカリキュラムの見直しも行う。

また、自動車補修用部品の「ラベリング規格」に関する日本工業規格（JIS）の開発も継続して取り組むほか、自動車リサイクル業界の活性化に向けた長期戦略を立案する。

部会別ではリユース部品部会がJIS開発を継続する。今年度はリサイクル部品に対する情報の構成、記載項目、記入要項などを決定し原案を作成する。トラック・バス部会では架装物の解体作業見学会などを実施。リサイクル技術部会では新規受講者を対象に自動車リサイクル士制度認定講習会を実施する計画だ。

資源循環委員会では貴金属類の共同出荷事業を継続するほか、バンパーなど樹脂類の共同出荷事業に向けた準備に着手する。



CO₂削減数値(SPLシステム)

リユースパーツ使用による
CO₂削減効果参考値
平成28年4月

3, 185t

※一般、中・大型含む車を修理する際、新品部品を使用して修理する場合に出るCO₂排出量とリサイクル部品を使用して修理する場合のCO₂排出量の差がCO₂削減数値になります。

一般社団法人日本自動車リサイクル部品協議会と早稲田大学環境総合研究センターがLCA（ライフ・サイクル・アセスメント）の考え方にに基づき共同開発した「グリーンポイントシステム」より参照。



「ありがとう」を
たくさんもらえる会社へ

<http://www.jara.co.jp/>

JARA会員紹介

金森商会、女性や来客用化粧室を新設 ES 高めサービス品質向上

金森商会（金森弘元社長、岐阜県笠松町）は、従業員教育を強化しており、特に女性戦力の活用を推進している。4月にはフロントを担当予定の高卒女性社員を新規採用した。高卒社員で女性を採用するのは同社初。同時に男女ともに働きやすい職場環境づくりも進めており、300万円を投資して女性や来客者用の化粧室を新設した。従業員満足度（ES）を高め、生産、フロントともに質の高いサービスを提供する「プロフェッショナル」の育成に注力し、他社との差別化を進めている。

同社は人員数10人、月間処理台数は40～50台という小規模経営を維持している。鉄スクラップの資源売りなどは極端に少なく、部品販売に特化している。その中でも前期は過去最高となる売上高を記録。小規模ながら、苦境にも強い同社の生産力や販売力の秘けつを探ろうと、毎年業界の首脳らが多数見学に訪れる有力企業だ。

同社の販売先の多くが近隣の自動車ディーラーだ。特にこだわるのは品質である。金森社長は「目的のない部品は絶対に売れない。うちとはかくお客さんに安心して使ってもらい、喜んでもらうこと。それ以外にない」と力を込める。金森社長は



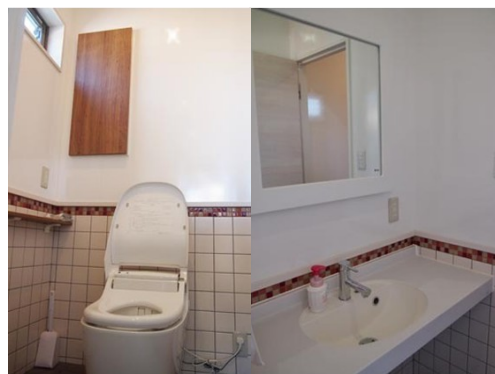
小規模でも地域に必要とされる企業に

県内自動車ディーラーのメカニック出身で、独立して同社を開いた。使用者のニーズを想定しながら生産に生かすことができ、長くディーラーに愛用される土壌を築いている。

品質を最重視するため力を入れるのが人材育成だ。金森社長自ら生産現場に立ち、時にはスタッフの作業を止めてまでもノウハウの伝授に努めてきた。「これからの時代は本物のプロと、何でもないアマチュアしか残らなくなる。中途半端なプロは必要なくなる」（金森社長）と考えるからだ。幅広く深い知識を習得させるため同社ではフロントと生産スタッフの職場ローテーションを数年ごとに実施する。互いの仕事について理解を深め、顧客に対して臨機応変なサービスにつなげるねらいがある。

そこで近年推進するのが女性フロントマンの活用だ。同社はパート従業員も含め、社員10人中4人が女性と、女性比率が高い。顧客サービスに女性ならではの細やかさを生かしたい考えだ。女性の職場環境を整えるため、今春には女性用化粧室を新設

した。便座から内装まですべて女性社員の意見を取り入れ、使用満足にこだわり設計した。「これまで不便をかけていたこともあり、女性社員の好きなように作らせた。金額には私も驚いたが、やってよかったと思う」と金森社長は手応えを感じている。一方で「プロフェッショナルを育てようとすると、育つまで会社全体の成長スピードは遅くなる」と欠点も認識する。それでも人材教育への意識は変えない。「会社の規模としては現在の人員数は過剰かもしれない。ただこれからを担っていく若い世代が会社の可能性。自分が想定しない方向へと会社を成長させてほしい」と期待を込める。暗い話題が多い中、「嘆いても仕方ない。我々から進んで明るい未来をつくっていかないと」と、次代の業界の成長を促している。（日刊自動車新聞6月9日）



- ・女性社員がタオル1枚から選んだ
- ・化粧直ししやすいよう洗面台も広く

環境省、自動車各社にプラスチック再利用促す 再生材多用車を優遇

環境省は、プラスチックの再利用を自動車各社に促す。再生材を多用した新車を「エコプレミアムカー（仮称）」として優遇するほか、平均1.5%にとどまる既存車の再生材利用率を5%に引き上げるなどした場合、主原料のPP（ポリプロピレン）の再利用量は現在の1.5万トンから最大1.8万トンへ増えるなどの試算結果を示した。再生コストや機能性の確保が課題だが、環境省は再利用の工夫を各社に求め、

埋め立て処分する自動車破砕残さ（ASR）の減少や循環型社会の形成に役立てる考えだ。

現在、乗用車1台当たり約150キログラムの樹脂が使われている。同省によると、こうした自動車から排出される樹脂は年間約32万トン。このうち7割近い22万トンがASRとして処理され、部材として回収される分はわずか0.2万トン。残りは輸出などに回る。部材利用やASRから取り出される自動車由来のPPの再利用は年間約1万5千トンにとどまっているという。

環境省は、日産自動車「リーフ」やトヨタ自動車「SAI」など、再生プラスチック（再プラ）利用率が約20%の新型車が

新車市場の5%になった場合、再プラ利用量は現在の1.5万トンから2.2万トンへ増えると予想。こうした最先端の新型車と、利用率5%を達成した新型車の合計シェアが全体の5割になれば、再プラ利用量はさらに0.1万トン増える見通しを示した。すべての新型車が利用率20%を達成した場合、利用量は現在の1.2倍の約1.8万トンになるという。

ただ、廃材から再プラを取り出すコストに加え「素材の進化や経年劣化などで車から車への水平リサイクルが難しい」（再資源事業者）との声もある。環境省としては、再利用しやすい素材や設計、再生技術の高度化などを今後も後押しし、プラスチックの再利用を進めていく考えだ。

（日刊自動車新聞6月6日）

プラスチック再利用率20%のリーフ



自動車破砕残さ ASR



PLACE AD

Advertiser wanted!

Advertise your excellent products and services to readers in the automotive recycling industry around the world!

Contact with JARA Corp.

<http://www.jara.co.jp/>

KOBELCO

低燃費のコベルコ!
低炭素社会の実現へ

コベルコが提案する 新しい考え方

1979年世界初の自動車解体機の発売以来、
30年以上にわたって金属リサイクル分野で常にリードし、
環境負荷の低減に貢献してきました。

マルチ解体機

使用済み自動車の解体以外にも廃家電などの金属製機器の解体および
さまざまな複合廃棄物の解体・分別作業が可能です。



SK135SRD

SK2100

コベルコ建機株式会社
<http://www.kobelco-kenki.co.jp/>

KOBELCO

We Save You Fuel
Advancing a Low-Carbon Society

New ideas come from KOBELCO

Since launching the world's first car-dismantling machine in 1979,
KOBELCO has continued to take the lead in the metals recycling industry.
For over 30 years, we have contributed to reducing environmental impact.

Multi-Dismantling Machine

In addition to dismantling end-of-life cars,
Multi-Dismantling Machine can break down
various metal products and equipment
such as used household appliances and
can separate and sort various composite
material wastes.

Car-Dismantling Machine

Car-Dismantling Machine efficiently
separates and sorts raw materials in
end-of-life cars and is able to recover
rare earth metals.



SK2100



SK2100

KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY EUROPE B.V.
<http://www.kobelco-europe.com/>
KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY U.S.A. INC.
<http://www.kobelco-usa.com/>

KOBELCO

神鋼 无坚不摧!
您满意的选择

新构想源于神钢

1979年世界第一台汽车拆除机发售以来，
30多年来一直引领金属再生领域，
在降低对环境压力方面功不可没。

多功能拆除机

不仅可以拆除不再使用的汽车，还可以
拆除废家电等金属制机器以及各种复合
废弃物品的拆除、分类作业。

汽车拆除机

可快速进行报废汽车内素材的分类作业，
能够回收稀金属资源。



SK135SR

SK200

成都神鋼工程机械(集团)有限公司
<http://www.kobelco-jianji.com/>

KOBELCO

We Save You Fuel
Advancing a Low-Carbon Society

새로운 발상은 KOBELCO에서

1979년 세계 최초로 자동차 해체기를 출시한 이래,
30여 년에 걸쳐 금속 재활용 분야에서 항상 앞장서서
환경 부하 저감에 공헌해 왔습니다.

멀티 해체기


용도 폐기된 자동차의 해체 외에도 폐가전제품 등 금속제 기기의
해체 및 다양한 복합 폐기물의 해체·분리작업이 가능합니다.



SK135SR



SK200

 (주)삼정건설기계
<http://www.samjung-kenki.co.kr/>